

小児結核研修会の開催について

山梨県企画県民部県民生活センター
相談・啓発スタッフ
(前 福祉保健部健康増進課 感染症担当)



赤池 翔

1 山梨県の現状

山梨県は日本列島のほぼ真ん中に位置し、豊かな自然に囲まれた人口約85万人の県です。県庁所在地の甲府市を中心とした「国中」地方と富士山麓の「郡内」地方に分けられ、両者の自然や文化は大きく異なっており、結核患者数は8割以上が国中地方に集中しています。

結核患者の発生状況ですが、平成23年の新登録患者数は97人、罹患率は11.3と、全国平均より低い傾向であり、ここ数年横ばい傾向です(図1)。また、年齢別の内訳は60歳以上の割合が約7割であり、小児(15歳未満)については症例数が少ない状況です(図2)。

小児結核患者の発生は都市部で多い傾向がありますが、本県では医療現場や保健所において小児結核を経験することが少ないため、患者発生時の診断の遅れや医療水準の維持が課題となっております。

図1 罹患率の推移

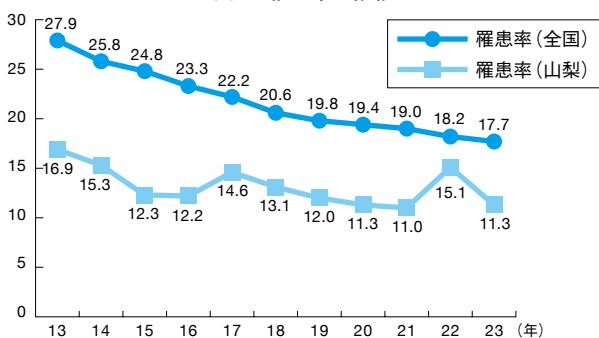
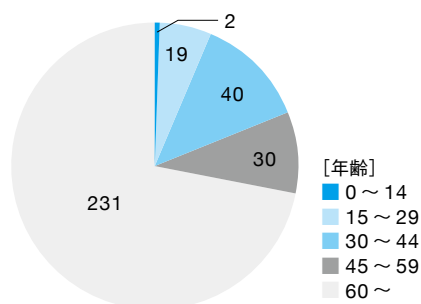


図2 年齢別新登録患者数(H21~H23累計)



2 開催の経緯

本県では、毎年、医療関係者を対象とした結核研修会を開催しており、過去には、「結核の最新の知見」をテーマに、全国的な結核対策の課題や問題点、具体的な症例紹介(対応困難事例、診断困難な症例、希少症例等)、IGRA検査等の講演内容で、外部講師による講演会を開催してきました。

平成24年度の開催内容を検討していたところ、本県では、以前から小児の結核患者に対する診断の遅れや医療水準の維持が問題視されており、県小児科医会等の要望もあったため、東京都みなと保健所で開催された「第3回首都圏小児結核症例検討会」に参加し、本県の研修会の参考としました。

みなと保健所の検討会では、小児結核に関する4症例について、医療機関と行政それぞれの立場から発表されており、参加者による活発な意見交換がされておりました。

それぞれの顔の見える関係を実際の結核患者発生時の対応に活かすことは非常に重要です。本県でも「小児に関する結核対応の事例発表」という形で開催することとし、内容は小児結核に関する対応事例発表、県からの情報提供、講演での症例紹介の3本柱で組み立てました。

3 研修会



【事例発表】

- ①小児の集団接触者健診事例（富士吉田市立病院，富士・東部保健所）
- ・小児を対象とした集団接触者健診事例の経緯，結果，課題の報告

- ②BCGによる骨結核の疑い事例（山梨県立中央病院，中北保健所）
- ・BCG予防接種による骨結核の疑い事例についての経過報告

【県からの情報提供】

- ③山梨県の結核患者発生状況（健康増進課）
- ・県内の統計から，患者は高齢者が多く，働き盛り世代の増加も問題となっていることを説明

- ④結核の接触者健診・管理検診の重要性と結核健康手帳の活用方法（峡南保健所）
- ・結核患者に対する保健所の関わり方や，接触者健診，管理検診の簡単な流れを説明し，必要に応じて協力いただくよう依頼
 - ・平成22年度に県と医療機関が合同で作成した教育ツール『健康手帳』を紹介し，患者が結核に関する知識を得ることで，結核治療に対する意識（自主性）が向上したことや，診察時に先生のコメントを手帳に記入してもらうと，患者のモチベーションが高まることなどを紹介

【講演】

- ⑤小児結核の現状と結核対策の最新の知見について（国立病院機構南京都病院小児科 徳永修先生）
- ・全国の小児結核の現状，具体的な症例紹介，IGRAの有用性，BCGワクチンに関する最近の話題などについて講演

4 考察

事例発表については，医療機関と行政が各々の視点から1つの事例を発表することで，それぞれが具体的にどのように患者と関わっていくのかを知っても

らうよい機会になりました。

集団接触者健診については，家族を対象とした健康診断と異なり，患者の各個人のプライバシーを守りながら，「感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第4版）」に基づいた効果的な集団健康診断を進めていく必要性や，集団健診を実施する医療機関の協力体制が不可欠です。

また，接触状況を確認する際は，接触頻度だけでなく，個々の対象者の背景や特徴を的確に把握し，総合的に判断する等の入念な調査や，患者と集団との関係に着目し，感染ありとなった場合の患者や接触者，集団への配慮及び情報共有が必要です。

対応事例発表や症例紹介を通じて課題を提示することで，参加者が結核医療の課題に対して具体的なイメージをもつことができ，より明確に情報を共有できることがわかりました。

また，当日の質疑・応答により，医療，行政それぞれの対応や業務内容の理解が深まり「顔の見える関係」強化にもつながったと思います。

5 今後の展望

本県では，中核医療機関とその他の医療機関との連携が課題となっています。

結核患者が減少するなか，医療現場では結核医療の経験が少ないことを理由に，結核患者の受け入れを断られるケースも多く，今回のような様々な事例，症例を紹介していくなかで，各関係機関で情報を共有していくことが重要です。

研修会後のアンケートでも，実際の症例紹介について多くの要望がありましたので，今後も多くの医療機関へ情報提供する機会を設けることで，情報を共有し，患者の早期発見，早期治療につなげることで，結核撲滅を目指していきたいと考えております。

6 謝辞

今回の研修会で御講演された徳永先生をはじめ，開催にご協力いただいた各関係機関の皆様に感謝いたします。

参考文献）山梨の結核（平成21年～平成23年）